

《もくじ》

- 特集：いま、激しく変容する歴史から何を学ぶか～揺るぎの時代を生き抜くために～
- 2頁・半世紀ぶりの8月6日―広島再訪……………上野 千鶴子(東大名誉教授)
- 4頁・満蒙開拓自決とシベリア抑留……………篠原 孝(正会員・衆議院議員)
- 6頁・なぜ、日本は愚かな過ちを繰り返すのか……………笠原 崇寛(正会員)

奔流

《第17号》

- 発行
千曲川・信濃川復権の会
〒184-0012
東京都小金井市中町2-5-13
FAX・TEL 042-381-7770
- 発行人・根津 東六(共同代表)
- 編集人・矢間秀次郎(共同代表)
- 干振替・00120-0-710488

題字揮毫・梅原猛

大河の一滴 (17)

社会を変える15%の法則

―日本の市民社会も世界標準に近づいた―

伊藤 千尋(国際問題ジャーナリスト)



今年、世界の15か国を回った。日本だけでなく世界が戦後70年を迎え、どこも大きく動いている。日本の社会も大きく変わろうとしている。

●終戦の日は「民主主義の日」

世界で最初の大きな70周年式典が行われたのは1月27日、ポーランドの旧アウシュビッツだ。ナチス・ドイツに収容されたユダヤ人がこの日、解放された。国連事務総長は「不和のサイクルを止め、相互に尊重する世界をつくらう」と呼びかけた。

そのドイツは過去から学んでいる。終戦の日を「民主主義の日」と名づけた。独裁から民主主義に変わったことを国民が心に刻もうという積極的な姿勢の現れだ。戦争中の被害者には個人補償し、これまで440万人に計10兆円もの額を支払った。不和のサイクルを止める努力をしている。

かたやアジアの国々に不和を拡大しているのが安倍政権だ。不戦を誓った国を、戦争する国に変えようとする。

この4月広島原爆詩人、栗原貞子さんの墓に参った。墓の横に「護憲」と彫った碑が建つ。裏に憲法9条が刻んである。憲法を無視する政権を憤り、「羊のようにおとなしい」日本国民を齒がゆく感じてきたのではないか。

●日本の市民も世界標準に

その日本の市民が今年、急速に変わった。身体を張った行動で抗議するようになった。つい数年前まで「デモを見たことがない」と言われたが、今や毎日、全国どこかでデモがある。国会を包囲した9月の12万人デモは市民意識の変化を見せつけた。

その日、国会の周囲を歩きながら思い出したのは、2003年にアメリカで体験したイラク戦争反対の全米100万人デモだ。各自が自分の主張を書いた手製のプラカードを持ち、楽しげに歩いた。労組の旗の下で統一行動する日本とはかなり違うと思っただ

が、今や日本も世界水準に近づいた。

●社会を変える15%の法則

3月に訪れた韓国・済州島の平和博物館には「自由と平和は何もせず得られるものではない」と書いてあった。5月に訪れたポーランドの自主労組「連帯」を記念する博物館には、壁に電気抵抗器が並んでいた。自由に発言ができなかつた軍事独裁時代、市民は上着の胸に電気抵抗器をピンで留めて抵抗の意志を示したのだ。

歴史は動いている。世界の現場を見るうちに「15%の法則」に気が付いた。どの国の社会もほぼ3割が右派、3割が左派で、4割が中間派だ。中間派を味方につけた方が多数派になる。そのためには3割が結束すればいい。その半数の15%がデモに参加するなど目立った行動に立ち上がれば中間派を巻き込み、日本は変わる。

ベルリンの壁が壊れたのは、平和なデモがきっかけだった。参加者が一定の数を超えた時、社会は雪崩を打った。次に壁を壊すのは私たちの番だ。

* 主著『一人の声が世界を変えた』『辺境を旅ゆけば日本が見えた』『新日本出版社』『地球を活かす 市民が創る自然エネルギー』(シネフロント)、『反米大陸』(集英社新書)など。

* 写真撮影・竹井俊晴氏。